

博物館におけるウォーキングイベントの企画・実施方法について(2) ～埼玉県立川の博物館での実践例より～

羽田武朗(川の博物館)

1 はじめに

埼玉県立川の博物館(以下、当館)では、一般の方々を対象とした講座「荒川ゼミナール」を開講している。

この講座は、荒川流域の歴史や自然等をテーマとした「講演会」と、ウォーキングイベント、主にこの2種類のイベントから構成されているⁱ⁾。

前稿でも述べたが、筆者はここ数年、特に上記のウォーキングイベントの企画・立案・実施に携わってきた。

当館におけるウォーキングイベントの取り組みについては、前稿で述べた通りであり、また前稿では当館の性格等をふまえたうえでの、ウォーキングイベントのあり方、そして学校の教育現場への応用の可能性についてあわせて述べた(羽田 2013)。

本稿では、前稿で論じた内容、そして平成25年度以降に実施したイベント内容をふまえ、博物館におけるウォーキングイベントのあり方について改めて述べてみたい。

2 当館実施ウォーキングイベントの基本コンセプトについて

本論に入る前に、前稿にも記載した、当館のウォーキングイベントの基本コンセプトについて記す。イベントを実施していく中で、若干変更させた点もある。

まずは、募集要項等について以下に記す。

①対象：一般

*保護者同伴で、未就学児や小学生の参加も可能。

②料金：100円(保険料)

*道中公共交通機関を利用する場合や、有料施設等を見学する場合は、参加者の自己負担となる。

③募集人数：原則20名

④配布資料：見学ポイントやウォーキングルートを記載したウォーキングマップ(図1)等を適宜準備。

次に、ウォーキングイベントを企画するにあたっての基本事項について以下に記す。

ポイント①：人文系・自然系の学芸員が同行し、道中に両分野の解説を行う。

ポイント②：歩行距離は10kmを目安とし、その上でコース選定を行う。歩行距離が10km以上となる場合は、途中で切り上げ可能な場所を設けるⁱⁱ⁾。

ポイント③：イベント実施時間は、午前10:00から午後4:00を目安とする。

ポイント④：公共交通機関を利用して、集合・解散できる場所を候補地とする。

ポイント⑤：当館の展示テーマに即したコース選定を図る。

3 前稿での結論

次に前稿で述べた、ウォーキングイベント実施の方向性について記すⁱⁱⁱ⁾。

Iウォーキングイベントのシリーズ化ならびにウォーキングコースのモデル化。

IIテーマ性を持たせたウォーキングイベントの確立。

III文系・自然系両分野の学芸員が担当する形でのイベント実施。

IV既存のウォーキングイベントの情報発信。ホームページ上でのウォーキングマップの公開等。

V他団体との協力を得ての実施あるいは共同での実施。

VI小学生向け体験授業へのウォーキングイベントの応用。

4 前稿のまとめから平成25年度以降の実践例をふりかえる

前稿では、前述の通り、当館での実践例から、博物館におけるウォーキングイベントの実践方法と、学校の教育現場への応用の可能性について論じた。

前稿で論じた内容をふまえ、平成25年度

以降に企画・実施したウォーキングイベントの性格をふりかえってみたい。

前稿では、博物館におけるウォーキングイベントの実施にあたり、ウォーキングイベントのシリーズ化とコースのモデル化という方向性ならびにテーマ性の確立という課題を提示した。

この点を鑑み、それまで漠然とした形で実施していたウォーキングイベントを系統化し、同時に当館の展示テーマに即したイベントに転化させた。

またイベント実施にあたっては、マップ等の配布資料の統一化ならびに規格化を図り(図1)、イベント実施後に個人でも楽しめるように配慮した。このことにより、昨今のテレビ番組等の影響から増加した、当館への問い合わせにも対応可能となった。

また「当館の展示テーマに沿った形」だけでなく、各イベントの毎に「テーマ」ないし「キーワード」を設定し、見学ポイントの選定等に配慮した。

上記の様な配慮・工夫を加えたことにより、既存のイベントをより系統化することが可能となった。

5 ウォーキングイベントの今後の可能性と課題について

ウォーキングイベントを数多く企画・実施していく中で、館独自の方向性やオリジナリティを構築することができた。

今後よりイベントを発展させるにあたって考えられるポイントが「地域性」あるいは「応用性」ではないかと考える。

これまでは当館の展示テーマそしてイベントの総称にも使用されているように、基本は「荒川流域」で実施していく中で、イベントスタイルを構築してきた。

しかし、例えば、「川」をキーワードに当館の所在地である埼玉県を考えた場合、「荒川流域」、「埼玉県東部地域」、そして「東京へとつながる都市部」、大きくこの3つに分けて考えることもできる。もちろんさらに細分化することも可能である。

このような形に分けられた場所において、これまでに確立させたスタイルに地域性を持たせた上で実施する、これが次の課題ではな

いかと考える。

6 おわりに

本稿では、前稿の内容をふまえつつ、改めて当館で実施したウォーキングイベントを振り返り、博物館におけるウォーキングイベントのあり方について述べた。

最後に本稿のまとめとして、今後のウォーキングイベントの方向性を述べて、結びとしたい。

- ①ウォーキングイベントのシリーズ化ならびにウォーキングコースのモデル化。配布資料の統一化ならびに規格化を含む。
- ②ウォーキングイベントのテーマ性の確保。イベントには毎回テーマを持たせ、参加者は特にそのテーマを中心に学習していただけるようにするに配慮する。
- ③イベントの企画・実施には、文系・自然系両分野の学芸員が従事し、各回に設定したテーマがより生きるようにする。
- ④ウォーキングイベントの情報発信。配布資料の統一化・規格化の実施に伴い、ホームページ上での公開を含め、より情報発信しやすい環境が整ったと考える。
- ⑤他イベントとの連動。これまでは、企画展や特別展の関連イベントとの位置づけで実施することもあったが、今後は講演会等のイベントとも連動させ、双方のイベントに相乗効果が生まれるようにする。
- ⑥刊行物等の成果物を生かした形でのイベントの実施^{iv}



写真1 平成27年度実施風景(図1と同じイベント)

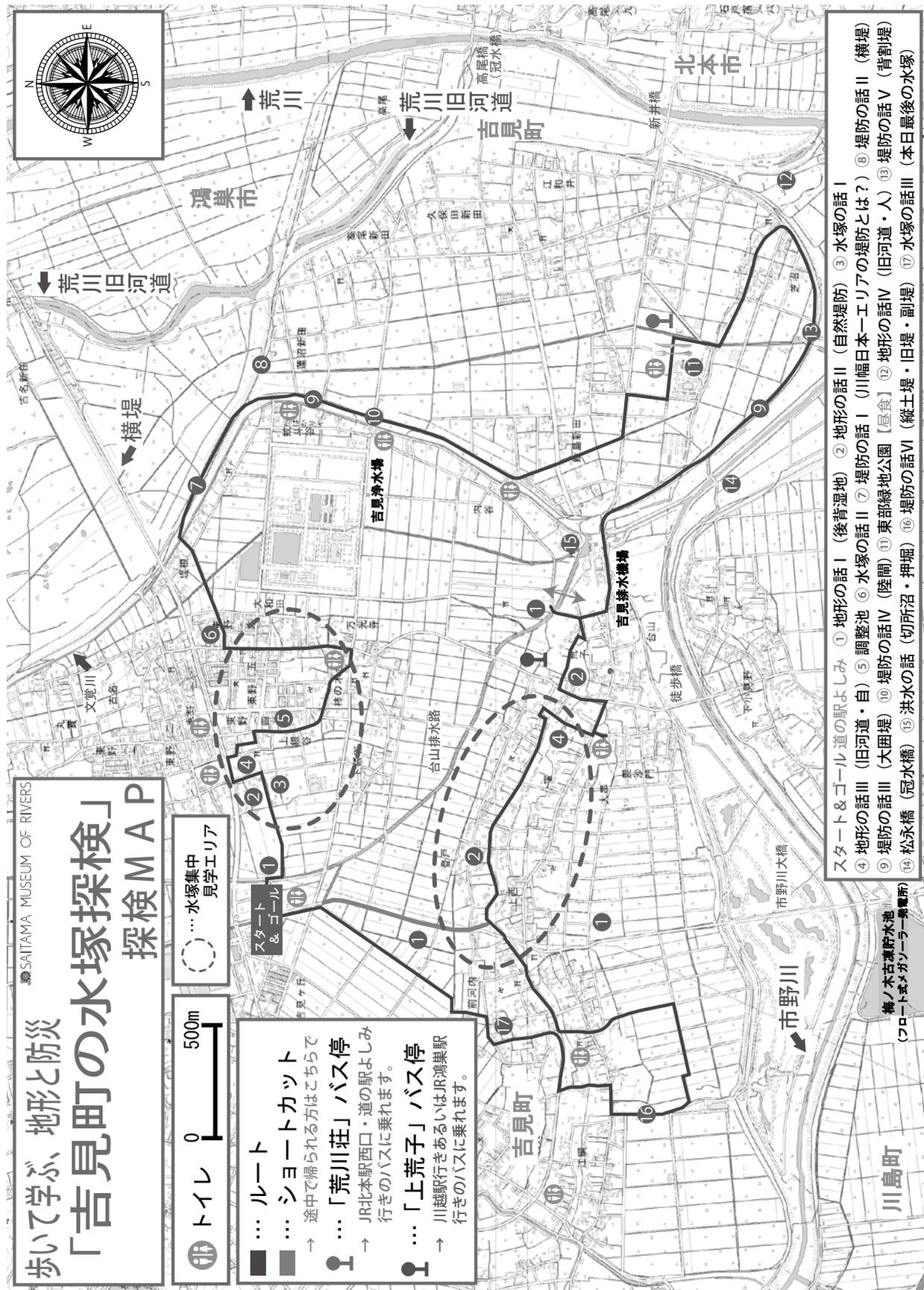


図1 平成27年度に実施ウォーキングイベントで配布した資料

⑦他館や地方自治体、地域の各種団体の協力を得て、ウォーキングの途中で詳細な解説を実施していただく、あるいは共催という形で実施できるようにする。

⑧これまでに確立した手法を生かし、実施フィールドを広げていく。

今後は特に上記の８点を考慮に入れながら、今後もイベントを企画・立案・実施していきたい。

謝辞

前稿執筆後に筆者が担当したウォーキングイベントも、これまで同様に当館のスタッフを含め、多くの方々の御協力ならびに助言の下で成立いたしました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

引用文献

埼玉県立川の博物館編（2011）畠山重忠の故郷を歩く 旧川本町編（かわはくウォーキングMAP）。

埼玉県立川の博物館編（2012）元・荒川だった場所を歩こう！ 隅田川編・第一弾（かわはくウォーキングMAP）。

埼玉県立川の博物館編（2015）荒川流域の高低差まるわかりMAP。

羽田武朗（2013）博物館におけるウォーキングイベントの企画・実施方法について - 埼玉県立川の博物館での実施例より - 埼玉県立川の博物館紀要, 13: 53-60.

- i 上記のイベントに加え、当館開催の特別展や企画展と関連させたイベントを開催する場合もある。
- ii 例えば、路線バスのバス停や駅の側を通過し、途中で切り上げが可能な態勢を整えている。
- iii 紙面の都合上、表記内容は一部省略・簡略化している。
- iv 例えば、当館が今年度刊行した、デジタル標高地形図等の活用が考えられる。